

## 平成26年度 特別養護老人ホーム事業報告書

### 1. 基本方針について

震災から4年が経過した現在でも、職員は減少しており、平成26年7月には更に1ユニットを閉鎖、6ユニットでのスタートとなった。

顔なじみの関係のなかで、「信頼関係」とは別に「馴れすぎ」の介護に悩みながらも、「諦めないケア」「利用者本位のケア」を多職種間と連携を図り、「生活の質を下げない」ように取り組んできました。(個別ケアの取り組みとプライバシーの保持、家族同様の気心しれた関係づくりや、日々のケアを通して振り返る意識を持てるようにしてきた。)

震災後は、職員に採用されても、すぐに退職してしまう流れがあり、その度に、職員は、仕事継続への不安がでていました。しかし、今年3名の方が採用され継続勤務していることで「ホーム継続」の安堵感に繋がっていると思います。

また、「馴れすぎ」の関係(言葉づかい)にも、飯舘弁でない会話が、逆に職員への刺激となり、言葉づかいに対する「意識」が高まるきっかけともなった。

他の施設経験のある職員から、これまで自分達がつくりあげてきた「いいたてホーム」のケアの評価について、“質の高さと雰囲気素晴らしい”と聞かされ、自分達が行ってきたケアや方向性に自信を持つことができた。

そんななか、8月に利用者の賀寿をお祝いすることができたことは、職員の励みとなり、寄り添うケアの大切さを実感した。

また、3月には新たに3名の入居者を迎えることができました。当初は職員数の問題から不安もありましたが、馴れてしまった介護から脱却するには、良いきっかけとなり、機能向上や生活の質をあげるケアを再認識させられ刺激ともなりました。

いいたてホームは、利用者や職員が共存している「生活の場」であり、そこは、原発事故から守らなければならない「安全・安心」の場であり、できるだけ普通に過ごせるよう努めてきました。結果、笑って過ごして頂けていることからみれば、概ね基本方針の目的は達成できていると思います。

#### ① 重度化への取り組み

ご利用者にとっての1年は変化も著しく、特に今年度は、元気で自立していられた方が、突然の疾病や高齢に伴う身体機能の低下、認知症状の重度化と日々の生活が大きく変わりました。

このことから、如何に苦痛なく安楽に過ごせるか「食事」「排泄」「入浴」のケアは基より、孤独にさせないためのケアと繋ぎ合わせ、多職種間との連携を図りながら、寄り添えるケアに取り組み、看取りの時が訪れた時には、ご家族の方に宿泊して頂き、最期の一呼吸まで一緒の時間を過ぎて頂きました。

また、心身機能の維持のため、日々の生活リハビリを取り入れ、今行えていることへのサポートや、機能維持向上のためのレクリエーションリハビリ等、生活にメリハリや楽しみを見出せるよう「自立支援」への取り組みを行ってきました。

#### ② 利用者の暮らしに寄り添うケア

少しでも普段の生活が営め、地域社会への繋がりを継続していくため、春・秋に近隣市町へ外食や買い物等を兼ねたドライブに出掛け、季節を肌で感じられるあたり前の生活環境作りを提供してきました。また、少しずつではありますが、家族の面会も増えてきており、ゆっくりと面会ができるよう配慮もしてきました。

ご家族と職員の信頼関係を深める目的として行われた「芋煮会とミニ運動会」では、車いす競争等を通し、職員と家族の垣根がより低くなったように感じ、ご家族の方から「職員にまかせっきりとなっていた」「少しでも足を運びます」との言葉を頂き、その後、面会時の職員との会話が増えてきています。

介護職員はご家族との間を取り持つ役目として、家族の方が施設に足を運んで頂けることで、

結果、ご利用者の喜ぶ笑顔が見られ、ごく普通の生活が送られているのだと思います。

## 2. 具体的な取り組み内容

### ① 職員会議

年月日	議 題 ・ 内 容
H26 4.24	今年度の事業計画（ホーム、厨房、各家） 各家の取り組み、厨房会議報告
5.29	各家の取り組み、厨房会議報告、 各委員会より活動計画（口腔、入浴、排泄、リスクマネジメント、感染症対策）
6.27	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～口腔ケア委員会（口腔ケアDVDにて勉強）入浴、委員会（菖蒲湯の実施について）、 リスクマネジメント（アクシデント集計報告、体圧分散・快適なベッド環境について） なんでも勉強会（医務室）「熱中予防強化月間について」
7.31	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～リスクマネジメント（体圧分散、車いすの疑似体験勉強会について）、入浴委員会 （お風呂の日実施報告）、口腔ケア委員会（唾液腺刺激体操について）、感染症対策委 員会（手洗いについて） 研修報告「福祉職員 初任者研修」について
8.29	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～口腔ケア委員会（口腔ケア体操（新バージョン）、リスクマネジメント（アクシデ ント集計報告） 研修報告「福祉職員 初任者研修」について 「県社協・老人福祉施設協議会介護職員研修会」について 「県社協・老人福祉施設協議会給食担当者研修会」について
9.25	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～リスクマネジメント委員会（車いす乗車疑似体験アンケート、アクシデントのマネ ジメントについて）、排泄委員会（排泄用品の試供、消臭対策について）、入浴委員会 （入浴シートの見直し、入浴方法勉強会について）、感染症対策委員会（感染対策に ついて） 研修報告「東北ブロック老人福祉施設研究会」について
10.30	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～入浴委員会（お風呂日開催について）、排泄委員会（ラバー使用について）、リスク マネジメント（上半期アクシデント集計、今月の標語）、感染症対策委員会（インフ ル エンザ予防対策について） 研修報告「認知症高齢者対応研修」について 「ユニットリーダー研修」について
11.27	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～感染症対策委員会（手指衛生について）、入浴委員会（お風呂の日について）、排泄 委員会（アセスメントシートの見直し、安楽体位について）、リスクマネジメント（車 いす・クッションの資料作成、アクシデント集計について） なんでも勉強会（医務室）「認知症とうつについて」
12.25	各家の取り組み厨房会議報告 各委員会～入浴委員会（お風呂の日実施報告について）、感染症対策委員会（ノロウィルス・ イ ンフルエンザ対策の実技）、排泄委員会（アセスメントシートの見直し、プライバシ ー について）、口腔ケア委員会（重点ケア者の経過報告、口腔ケア体操）、リスクマネジ メント（車いすクッション資料作成、アクシデント集計、今月の標語について） 研修報告「介護職員（4年以上）研修会」について
H27 1.29	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～感染症対策委員会（インフルエンザ・ノロウィルス予防について）、リスクマネジ メント（内出血報告書、アクシデント集計について）、排泄委員会（排泄用品の保管 方 法、排泄マニュアルについて） なんでも勉強（医務室）「安全な移乗方法とスカイリフトの検討」、「言葉使いについて」
2.26	各家の取り組み、厨房会議報告 各委員会～リスクマネジメント委員会（内出血報告書使用、アクシデント集計）

	ホーム災害訓練について 3/11実施について
3.26	各家の取り組みと1年間の生活報告 厨房会議報告、 各委員会より事業報告

## ② 家長会議

各家（ユニット）の家長が、現状の業務や勤務体制の見直しの検討の場となりました。直面した問題に、現場レベルで話し合う内容は具体的なものとなっていました。

開催日	内 容
H26 4.12	・年間活動計画について ・ユニット勉強会について ・年間行事について ・家族会総会について
5.20	・ユニットケアのアンケートについて ・外食ドライブについて ・緊急時の連携、対応マニュアルについて
6.18	・ホーム経営について（施設長より）・ユニット（くつろぎ）閉鎖について ・行事について（七夕・夏祭り）
7.29	・夏祭りについて ・賀寿祝（永井ミツ子様）について
9.11	・敬老会について ・ユニットケアアンケート取りまとめについて ・芋煮会について
10.16	・遅番の勤務時間変更について ・芋煮会 ・ミニ運動会について ・ユニット勉強会の進捗状況について
11.18	・年末年始の行事について ・感染症予防対策について
H27. 1.26	・業務の見直し（日勤者の業務内容について） ・次年度の事業計画について ・2.3月の行事について ・ユニット勉強会について
2.27	・日勤者の会議出席について ・家会議の在り方について・利用者のケア会議について ・防災マニュアル作成について

## ③ 行事

外出に制限がある環境の中で、少しでも季節を感じて頂けるよう取り組んできました。

また、外出できない方へも、できる限り、室内行事にはベッド移動等を行い参加して頂きました。そして、孤独感を感じさせないケアと少しでもご利用者の笑顔を引き出せるよう努めてきました。

### H26 年度行事内容

月日	内 容		場 所	参加者
4.27	家族会総会 花見昼食会	家族会総会后、ご家族・ご利用者・職員と花見昼食会で交流を持ちました。	各ホール・ユニット	ご家族 35名
5.22 23	外食ドライブ	気分転換を目的に、ドライブを兼ねて外食をしてきました。ラーメンやうどんを注文し、殆どの方が完食。その後、ショッピングを楽しみました。	南相馬市 ジャスモール	其々9 名
7.6	七夕昼食会	各棟で七夕昼食会。そうめんを寿司桶に盛り付け、天ぷら、フルーツポンチ等を食しカラオケも楽しむ。経営栄養者もホールに移動し、交流を楽しみました。	西・北棟 ホール	利用者 全員
7.13	お風呂の日	特浴を利用、菖蒲湯や花を湯舟に浮かべ銭湯気分を味わって頂く。湯上りにはホールでアルコールや一品料理を頂き居酒屋気分がゆったりと寛いで頂きました。	西棟特浴 西棟ホール	利用者 16名
7.25	買い物外出	買い物希望のご利用者で川俣町へ外出	川俣町 靴店・食堂	利用者 3名
8.3	夏祭り	今年は、縁日と模擬店に力を入れ、食べて楽しみ、ゲームやカラオケで盛り上がりました。また、花塚太鼓の皆さんのご協力により盆踊りで締めくくりました。	西棟ホール	全員
9.15	ホーム敬老会	職員の余興でスコップ三味線や安木節が披露され、泣き笑いありの盛り上がりでした。昼食は、厨房から嗜好疑らしたのり巻やいなり、ペースト食の方へはソフト食が提供されました。	西棟ホール	全員

9.29	バスハイク	川俣方面へ気分転換を目的に外出しました。車窓から景色が変わるたびに、様々な言葉が飛び交っていましたが、普段と違った表情でした。	川俣町	
10.8 17	外食ドライブ	月舘「花工房」へ外食ドライブ。普段、キザミ食の利用者も、うどんやそばを美味しく召かたてに食べ、満面の笑みを浮かべていました。	月舘町	
10.22	停電に合わせ 寿司昼食	午前中の停電に合わせ、西棟ホールで調理員が握り寿司を握ってくれました。	西棟ホール	全員
10.24	バスハイク	外食ドライブに参加出来なかった利用者を中心に、短時間でのドライブに出掛けました。体調を見ながら、ゆっくりと村内の秋の景色を眺めてきました。	村内	
11.1	ホーム芋煮会 ミニ運動会	ご家族と共に運動会・芋煮会で交流を深めました。また、今年は職員全員参加、職員も利用者もご家族の方も一緒に楽しめる種目とし大いに盛り上がりました。	東棟ホール	全員
11.13	屋台風 「ラーメン屋」	ホールの一部をラーメン屋台風に、昼食時間に合わせラーメン等を味わって頂く。味噌、醤油、塩好みのスープを注文、美味しく召かたてに楽しんでいました。	西棟ホール	全員
11.18	売店	事前に職員が色々な物を買出し、お店のように品物を並べ「買い物」を楽しんで頂きました。	各ユニット 各棟ホール	全員
11.30	お風呂の日	今年2回目のお風呂の日。今回は柚子とリンゴを浮かべ、季節感を感じ取って頂き、湯上りには漬物やおでん、甘酒等を食し、ゆったりと寛いで頂きました。	西棟特浴 西棟ホール	12人
12.21	クリスマス会	職員によるハンドベル演奏とサンタクロースからプレゼントが渡されました。昼食には、厨房手作りのピザやフライドチキンを美味しく召かたてに楽しんでいました。	西棟ホール	全員
12.26	餅つき	今年は臼と杵を新調、ホールで餅つきを行いました。職員が餅をつき、利用者が掛け声、仕上げに利用者が干本杵で餅をつきました。今年は滑らかな餅が出来上がり、鏡餅とあんこ餅、汁餅等頂きました。	西棟ホール	全員
H27 1.2	新年会	新年の初顔合わせをホールで行う。職員の余興(大黒舞、花笠音頭、よさこい)で、新年をお祝いし昼食を兼ねての交流会を行いました。	西棟ホール	全員
1.14	団子さし	季節感を味わって頂くため、この時季に団子さしを行う。色とりどりの団子を丸め、茹であがった団子をミズ木にさし各家に飾りました。	西棟ホール	
2.3	節分「豆まき」	職員で今年の年男、年女の方に豆を捲いてもらう。また、男性職員が鬼に扮し各家を回り、ご利用者は鬼めがけて豆を投げ厄払いをしました。	各ユニット 各棟ホール	全員
3.1	ひなまつり会	昼食会をホールで行う。厨房職員がホールにて、握り寿司と潮汁(はまぐり)を調理し、目の前で出来上がるのを楽しみ、頂きながら節句のお祝いをしました。	西棟ホール	全員

### 3. 一年を振り返って

震災から4年、震災前11あったユニットが現在では6ユニット、入居者数も43名と縮小しつつも存続できているのは、入居者の「生活を守る」との使命感と「笑顔と喜び」に助けられている達成感であり、職員一人ひとり想いがあるからだと思います。

毎年、一年を振り返り思うのは「また1年間継続できた」との安堵感。今も人員にゆとりはなく、年齢層も他の施設は20～30歳代と聴きますが、当ホームでは47歳と、とても高くなってきています。今の人員数から一人でも欠けると、現在の6ユニットの運営も難しくなってしまう、職員にとっても意識低下に繋がりがかねません。

こうした状況下においても、ご利用者の重度化となった身体介護に愚痴一つこぼさず、コールが鳴れば走って駆け付け、入浴が出来ない方には清拭や足浴を、ベッドで寝かせきりにしたくないとのことから必ず離床介助をする等、決して手を抜かない介護の姿。そして、年齢層が高い分、コミュニケーションや味のある優しさがご利用者に伝わっているように感じます。

これからも、ご利用者の思いを感じ取り、寄り添ったケアを大切に、職員一人ひとりが意識

を高く持ち続け、施設内で「家族」のように過ごせる関係作りと、ご利用者の“とびきりの笑顔”が見られるようなケアに努めていきたいと思ひます。

## 平成26年度 ひだまりの家 報告 (西棟)

### 1. 生活全般について

今年度は外気浴や外出の機会が増え、震災前に少し戻った様に感じました。お天気が良い日には普通に外に出て日光浴。輪をつくり座りながら脚を伸ばし皆さんとお話をしたり、大きな声を出すことで腹筋運動や顔の運動をする事が出来ました。震災前はあたり前のようにできていた事が、震災後は屋外に出ることへの制限があり苦痛を伴いました。窮屈な生活からやっと元に戻った喜びを声に出す事が出来ませんが、身体で大きな喜びを感じていたと思ひます。

また、以前は、ご家族が見えた際に近況報告をしたり、看護師を交えての意見を交換する事も出来ましたが、震災後は村外からの面会となり足が遠のいている様に思えたり、ご家族の方も高齢となっている為か、以前の様に気軽に面会に来る事が出来ないのかなとも感じました。

今年も村の文化祭に作品を出品し、パルセ飯坂まで作品を見に行く事が出来良かったと思ひます。他の方の作品や演芸、そして手打ちそばを食べる事も出来ました。満足そうな笑顔が忘れられません。まだまだ現役で作品を残して欲しいと思ひます。

この家で賀寿を迎えた方がおり皆でお祝いをしました。ご主人も天国で喜ばれた事と思ひます。この方を通して職員間の一致団結が発揮され、逆に素晴らしいプレゼントを頂く事が出来ました。また、もう一人白寿を無事迎える事が出来ました。息子さんがお祝いに駆けつけてくれたのにびっくり(内緒にしていたので)と嬉しさで、始終「笑顔・笑顔」でした。ご本人からは「100歳まで生きられそうだ」との発言も聞かれ、来年の賀寿祝いがとても楽しみです。

### 2. 食事・入浴・排泄について

#### ①食事

他職種の方々と熱のこもった話し合い(個々にあった食事形態・体調維持・栄養バランスの考慮)をし、実践することより「口から食べる」喜びを感じて頂けたかと思ひます。

家料理をする事によって、其々の好みが分かり、それらを提供することで家族的な雰囲気が出来たと思ひます。

ある方は、食事形態を変更した事により、自分で摂取する事が上手くなり、全量摂取するまでになりました。

食前体操では、職員はするものの、ご利用者は見ているだけでしませんでした。もっと、個別にマッサージ等を取り入れて実施すれば良かったと反省の材料もありました。

#### ②入浴

個別に合った入浴剤やクリームを使用する事により、皮膚トラブルも軽減され、掻き傷もあまり無かったようです。

入浴中は、安全・安心に心掛け介助していましたが、いつの間にか内出血や表皮剥離をしてしまった事もあり、「痛み」等を与えてしまい申しわけないと思ひもありました。

個々に合った入浴方法や補助具の使い方について、適宜話し合いを持ち、実技を見せ合う事で、より統一したケアを提供する事が出来たと思ひます。

入浴後の整容は、自分で出来る方は鏡を見ながら自分でして頂きました。鏡を見る事により

身体の変化を捉える事が出来良いことだと思います。

入浴で二人対応を要する方に対しては、他のユニットの協力を得、安全に入浴介助を行うことが出来たと思います。

これからもお互いに協力し合いながら「ご利用者がゆったりと温まる」お風呂を楽しんで頂きたいと思います。

### ③排泄

個々に合ったパットを使用し、皮膚トラブルを軽減することが出来たと思います。

皮膚トラブルのある方の排泄パターンを掴む為、2週間程2時間おきに排泄交換を試み、結果を基に、日中は2時間おきの交換、夜は排泄交換時間以外にも交換することで皮膚トラブルの予防をしています。どのようにしたらよいか模索している時は大変な時もありましたが、「ご利用者を知る」良い機会となり、私達も初心に戻る事が出来ました。

トイレでの排泄をされていなかった2名の方が、トイレに座り排便をする事ができるようになりスッキリ・さっぱりとしていた様に見えました。また、プライバシーにも配慮することで、羞恥心も軽減され笑顔も見られました。

尿臭のある方の下衣をその都度交換した事により臭いが軽減されました。また、全衣類の洗濯を大型洗濯機使用からユニットの洗濯機使用に変更したことにより、衣類の傷みも少なく、柔軟剤の香りも引き立ち良かったと思います。

排泄対応時に関する言葉使いは、聞こえが悪い方になると段々と声が大きくなってしまいう時もありましたが、職員間では周りに配慮し気をつけて業務にあたってきました。

## 3. 家内のユニットの取り組みについて

今年も昨年と比べ大きな変化も見られませんでした、「食」に対しては、皆さんとても楽し

みにしており良かったと思います。

9名の方が経口摂取されています。食事の時間になると普段は広いと感じるフロアも皆さんが揃うと狭く感じられます。本当は、ご利用者の会話が多い食事時間だと良いのですが、中々会話をすることが困難である為、個々の態度や様子を見て、介護員が代わりに多く会話することで、とても賑やかで楽しい食事時間を設ける事が出来たと思っています。

フロア内の設えや季節毎の装飾を工夫することで、ご利用者と共に考え楽しめたと思います。

また、寒い2月に「ふきのとう」や「福寿草」を持ち込み、温かい施設での成長を楽しむ事も出来ました。外は雪でも室内は温かく、日に日に成長していく速さに感嘆し、共通の話題を持つことにより、自然と共感を味わえコミュニケーションを図る事が出来たと思います。

## 4. 行事の取り組みについて

今年度は西・北棟での行事が多く、普段ベッドで過ごされている方も参加する事が出来たので良かったと思います。

ホームでのドライブ・花見・外食が、ご利用者にマッチする内容で参加する事が出来ました。これらはストレス解消にも繋がりが良かったと思います。しかし、個人的に訴えている方に対してはスムーズに対応する事が出来なかったため、事前に上司と連絡を取り早めの対応が必要と思いました。

## 5. 一年を振り返って

年齢や身長差の少ない介護員が集まったユニットの為か、物を置く場所やケアの仕方、悩み、個々の考え等にぶつかり合いながらも、最終的には、お互いの協調性（強調性）を活かし、ご利用者に少しでも満足して頂ける様なケアをして来れたのではないかと考えています。

## 平成26年度 やすらぎの家 生活報告書 （西棟）

### 1. 生活全般について

震災後、入居者もなく、7月からくつろぎの家が閉鎖され、やすらぎの家には2名のご利用者が異動してきました。

ある方は、息子さんと娘さんに温かく見守られながら永眠されました。その方のケアには、普段行っているケアに加え、更に慎重さが求められていたことから、業務に追われる介護ではなく、時間を掛ける介護を学ばせて頂きました。

また、定期異動により3名の職員が入れ替わり、新しい風が家内に入りました。

終末期を迎えていた方に対しては、皆で統一したケアに力を入れ、一丸となって最期を看取ることが出来ました。

また、普段はベッド上で休んでいることが多い方が、話し掛けてくれ、それに応えることで静かだったフロア内に笑い声や笑顔があり、私達に癒しを与えてくれました。

自立していて安心と思っていた方の急な体調変化に、戸惑いを感じ、私達もどのように対応したらよいのか、ケアの内容がこれでいいのか、精神面でのケア内容とは、毎日が経験のない冒険のような日々が続きました。その都度、看護師にアドバイスを受け、他ユニットとの協力を得て対応していますが、今も毎日が勉強だなと思う日々を過ごし、今後の課題でもあると感じています。

そして、忙しい中であっても、ご利用者と触れ合う時間を作ろうと、ティータイムには寄り添い過ごすよう、また、ベッドをフロアに移動しコミュニケーションを図ろうと努めてきました。

居室・フロアの環境づくりには、季節を感じて頂くよう、花や装飾品の配置に努め、ソファや炬燵の設えを行い快適に過ごして頂くよう努めました。また、朝のラジオ体操では、職員が行っているのを見て、普段動かさない手を少しでも動かそうとされる行為があり、意識づけとなっているように思いました。

ご家族は遠くから定期的に面会に来てくれました。ご家族様の負担もあったと思いますが、ご家族と過ごす一時は、普段と違った表情で、楽しく過ごすその光景を見ると、とても微笑ましく私達も感謝する思いでした。

3月から1名の方が入居され、フロア内が一気に明るくなり、また、良い刺激になり、会話の中でも笑がみられるようになりました。

### 2. 食事・入浴・排泄について

#### ①食事

一年を通して、食事方法に悩み、試行錯誤しながら、個々の状態に合わせた食事形態の見直しと、満足して食べて頂く喜びを感じ取って頂くよう努めましたが、殆どの方が要介助者であり、ゆっくりと時間をかけ楽しみながら食べて頂くことには困難であり、つい業務的になってしまった事が多々ありました。

「美味しい」と言って食べてくれる方には、少量でも満足して頂けたこと、良い表情と笑顔がみられたこと、少しの時間でも会話をしながら楽しく過ごす事が出来たことは良かったと思

いました。

また、身体にサインとして栄養障害が出た方には、摂取量の表を作成し、食欲を増すよう嗜好品を聞きながら対応したところ、現在は、食欲も出てきて、落ち着きベストな状態となっています。

家料理については、定期的には行えず、数回しか出来ませんでした。全員に食べて頂くことが出来とても良かったと思います。

季節毎の行事食では、普段とは違う雰囲気の中で食べる喜びを感じ、食事量も増え美味しくうに頼っていました。また、通院時の外食が楽しみな方への継続が出来たらと考えていましたが、レベルダウンが激しく、対応することが困難で少し心残りとなってしまいました。

食前体操の励行により、食べる前の準備と云う意識になり、普段はまったく意識しない方も口を動かそうと頑張っています。色々なことがありましたが、改めて、食べる楽しさと続ける難しさを実感しました。

## ②排泄

プライバシーに配慮（羞恥心に気配り、対応や言葉使いに注意）した排泄交換を行い、皮膚トラブル防止に努めると共に、随時パットの見直しと清潔保持を行い、快適に過ごして頂けたことと思います。

排便コントロールの難しい方には、看護師と相談しトイレに座り快便できるよう促すことで、オムツゼロに向けた対策をすることが出来、併せて消臭対策にもなりました。

## ③入浴

個々の状態に合った入浴方法を随時見直し、他ユニットとの協力のもと、安全・安心し、ゆったりと入浴して頂くことが出来ました。また、入浴剤や洗身用品の選択により快適な入浴と、皮膚トラブルのある方に対しては、保護カバーの対応や入浴後のローションの対応により、全身保湿に気を配ることが出来ました。体調により入浴できない方に対しては、足浴等を行い清潔保持にも努めることが出来ました。

## 3. 行事の取り組みについて

定期的なレクリエーションに参加することで、瞬間的に手を動かす動作をされる等、普段見られない光景を見ることができました。また、それを周りで見ているご利用者も、他のご利用者の動きを目で追い参加しているようでした。

季節毎の行事では、全員の参加に努め、楽しんで頂くことが出来ました。また、普段寝たきりの方は、離床している時間が長いと疲れもみられることもあり、楽しんで頂くことが出来ない事もありました。

ご家族参加の行事では、多くのご家族様に参加して頂き、楽しく過ごすことが出来たと共に、ご利用者の表情を見て、安心して帰られたご家族の方を見られたことがとても印象に残り、私達も嬉しく、今後も精一杯「がんばろう」と思いました。

夏祭りには、ご利用者と職員が浴衣や甚平姿で盛り上げ、また、沢山の余興に楽しく過ごす事が出来ました。

## 4. 一年を振り返って

初めは少人数の中でもなかなか寄り添うことが出来ず、コミュニケーションも上手く取れず日々が過ぎてしまいました。また、重度化して行く方の日々の容態変化を目のあたりにし、日常のケアが如何に大切であるか、そしてケア内容を随時見直して行くことの大事さを教えられ、まだまだ私達も勉強不足だと感じさせられました。その中でも、加えて職員間の連携の大事さも痛感しました。今後、待機者が入居することを踏まえ、職員間の連携をより密にし、安心して過ごせる環境づくりに取り組む必要があると思いました。



## 平成 26 年度 ぬくもりの家 生活報告書 (西棟)

### 1. 生活全般について

震災 4 年目を迎えましたが、以前変わらない環境の中で 2 名のご利用者がお亡くなりになりました。同時にくつろぎの家が閉鎖となり、3 名のご利用者との職員の異動もあり、新たなぬくもりの家が始まりました。

ぬくもりの家のご利用者は、比較的「自分の事は自分で出来る方が多いから良いのでは」と思われがちですが、中身は逆で、精神面でのケアが大変だと今更ですが痛感しました。

ご利用者に寄り添い、“共に笑い・楽しみ”を念頭に置き、如何に本当の笑顔を引き出すことが出来るのかが始まりでした。

9 月に長年闘病に伏せていた方が、沢山の方に見守られ亡くなりました。2 月には 18 年間入居されていた方が体調を崩され、前日得意の歌「ちん・・・まん・・・」を振る舞い、皆さんを爆笑の渦に巻き込んだばかりの出来事でした。また、ベッド上で過ごされ意思疎通が困難な方が、「話しかけたら返事があった」と嬉しそうに話す介護員。別な方は「排泄交換の時に叩かれた・・・」と言いながらも、お座敷小唄と一緒に楽しみ、介護員が落ち込んだ時に慰めてくれました。本当に皆さん一人ひとりが役割を持ち無くてはならない存在の方ばかりでした。

また、職員もご利用者への想いが「この方にはこのようにした方が良いのでは」と、より一層、進歩に繋がった一年間のようなものでした。

### 2. 食事・入浴・排泄について

#### ①食事について

「今日の献立は何かな」と楽しみの一つ、いや、殆どが食事と言っても良いのではないかと考えています。個々の食事形態やテーブルの高さ、配置、自助具の使い易さ、食器等、随時見直し楽しく食事を摂って頂けるよう努めてきました。

経管栄養の方に対しても体調を見ながら、一緒に食事を摂ることも継続しています。

また、ユニット勉強会を繰り返し、食事時のタオル使いを見直ししてナプキンに変更する等、小さな一歩を踏み出しているにもかかわらず、言葉使いで大きく後退してしまったのも見受けられました。声掛けされた方、声掛けした方がお互いに傷つく事の無いよう、ワンテンポ置いて、声かけが出来るよう心に余裕を身に付けたいと思います。

#### ②排泄について

この一年間で大きな進歩が見られたのは排泄だと感じました。

「ベッド上での生活が主流となってしまった方が、トイレで排便を済ませる」これまでも、くつろぎの家で経験がありましたが、看護師の協力の下、ぬくもりの家でもこれほどの成果が出るとはとても嬉しい限りで、それ以上にご利用者の表情が良く「何年か振りにトイレに座った」と少し興奮気味でお話される方や、周囲をキョロキョロと見回す方など様々でした。特に

ある方に対しては、職員の観察力を発揮「絶対にサインを見逃さないぞ」と小さなサインを捉えているようでした。今後ご利用者の体調を考慮しながら継続出来たらと思います。

### ③入浴について

体調に合わせての入浴方法、職員間での協力の下、安全・安楽に入浴が出来たのではないかと感じています。今年度は多種類の入浴剤を用い「今日のお風呂は緑色で匂いは何かな」と五感を刺激、その一時を楽しみながらも、皮膚トラブル防止に優しいタオルを取り入れてきました。

衣類の洗濯については、加齢臭対策もあり、肌着以外は家で洗濯するようにしました。入浴後のケアについても直ぐに医務室で対応して頂き嬉しく感じています。

皆さんに「気持ち良い湯だなあ」と最後の最後まで、入浴させてあげられたらと切に思いました。

## 3. 行事の取り組みについて

年に一度の誕生日、毎年ながら来所されるご家族は限られているようでした。

そんな中で、あるご家族は、厨房手作りの誕生ケーキに感激され、面会の度にケーキの話題が出ています。目で楽しんだ後、口に入れた瞬間の表情が喜びに溢れているように感じました。今後も「これはどうやって作ったら良いの」と思えるようなケーキを厨房に注文するかも知れませんが、厨房手作りのケーキを楽しみにしたいと思います。

ホーム全体の行事についても、限られた時間の中で食事を兼ねたドライブ、配膳された食事を見て、ご利用者の目はお星様キラキラのようでした。

運動会では、本領発揮パン食い競争、夏祭りでの様々な模擬店で選び放題と喜んで頂けたのではと思います。また、家料理なども行い、お手伝い頂ける方にお世話になり、私達より上手で丁寧な包丁さばきを見せて頂きました。家料理では味付けの保証はなしでしたが「美味しいよ」と笑顔で食べて下さったのが印象的です。今後、行事等で、ご家族の方々の参加が増えるよう働きかけをしていきたいと思っています。

## 4. 一年間を振り返って

一日1杯のお茶を一緒に楽しむ。こんなの簡単じゃないと思えるような事が行えなかった。どうしてだろう。何を話して良いか分からない。時間が無い等。様々なことが思い出される。

この一年間を振り返り、前述のように数分で出来ることができなかつたり、また、逆に日勤者が居れば、普段手を掛けられないお部屋の整理をしたり、フロアの設えなどを行う等、実施できたものもあります。

ぬくもりの家が他の家に負けてないと思っている事が一つだけあります。それは、ご利用者を愛しいと想っていることだと思っています。今後もこの思いを忘れず共に過ごして行きたいと思っています。

最後に、18年間入居されたご利用者が永眠されました。その日は93歳の誕生日でもあり、お別れ会と誕生会が同時でした。大好きだった「お座敷小唄」でお見送りが出来た事に対しては、「良かったよ」と目じりを下げて喜んでもらったのではないかとと思っています。

## 平成26年度 せせらぎの家 生活報告書 (北棟)

### 1. 生活全般について

今年度の家目標は、「ご利用者を尊重し、優しく、丁寧なケアを行ない、個々に合った生活をお手伝いする」ことでした。

せせらぎの家は、東棟から北棟のユニットに移動し、1年余りが過ぎました。ようやく9名での生活が始まり、居場所や生活リズムが整い、よりいっそう手厚いケアが出来ると思っていた矢先に3名の方がお亡くなりになりました。

また、7月には、西棟よりご利用者2名を迎え、それと同時に職員も4名変わりました。

先に異動されていた1名の方については、環境の変化に伴い、戸惑いから言動や行動に変化が見受けられるようになったことから、少しでも以前の環境に近づけようと、皆で試行錯誤し居場所作りに励みました。結果、自分の居場所が出来たことにより、次第に落ち着きが見られるようになりました。

年々、高齢に伴う体調の重度化は避けられないなか、朝のラジオ体操から始まり、レクリエーションに、なるべく参加して頂くなど、生活に活気を求めることで、極端な変化を避けられたように思います。また、居室での生活が多くなる方へは、音楽を聴いて過ごして頂いたり、状態が良い時には、離床しレクリエーションの場に向かい、賑やかな雰囲気味わって頂いたり、環境作りに気を配ってきました。

### 2. 食事・入浴・排泄について

#### ①食事について

「口から食べること」の大切さを念頭に置き、体調に合わせ、看護師や栄養士と常に連絡を取りながら、本人の負担にならないような食事提供、経管栄養の提供が出来たと思います。

食前の「パ・タ・カ・ラ」体操は、介護員間で協力し合い行って来ました。介護員が声を出すことで、ご利用者さんも大きな声が出ていたようです。

また、口腔ケアも丁寧に行い、起床時に美味しく食事を摂って頂こうと口腔内を綺麗にしてからフロアへ移動しました。これからも、少しでも口から美味しく食べられる衛生の一環として努めて行きたいと思います。

#### ②排泄について

個々に合った排便方法等を検討、トイレでの排泄を大事にして来ました。また、随時個々に合った排泄介助を行うことで、皮膚トラブルや臭いが軽減されたように思います。

また、環境衛生の一つとして、換気もまめに行い、汚物を新聞紙に包むなど、尿臭対策にも努めてきました。

#### ③入浴について

高齢・重度化により皮膚も弱く、入浴後の内出血も見られました。特に、皮膚の弱い方には慎重に洗身や着脱をするように心掛けましたが、それでも内出血は出来てしまうこともありました。その件についてケア会議を行い、洗身用にムートンを使用することにしてからは、大分内出血が減りました。

また、ご利用者の状態を見ながら個浴が良いのか、機械浴が良いのかを検討し、ご本人の負担にならないよう、安心して入浴して頂けるように努めて行きたいと思えます。

スキンケア対策として、入浴用タオルを肌に優しいマイクロソフトタオルに変更し使用しています。乾燥肌の強い方には、保湿軟膏で対応したところ、服を脱いだ時に発生する白い粉が出なくなり良い状態になりました。

今後も、安全・安楽な入浴方法を介護員同士、話し合い勉強して行きたいと思えます。

### 3. 行事の取り組みについて

ホーム全体の行事の取り組みの中で『外食ドライブ、七夕会、夏祭り、敬老会、紅葉狩り、ミニ運動会&芋煮会、クリスマス会、餅つき会、新年会、団子さし、節分（豆まき）、ひな祭り』と、震災前に行なっていた年間行事を全て行なう事が出来ました。その都度、皆さんの笑顔を見る事が出来て「やって良かった」と思いました。

また、家料理も月1回は行ってきました。ご利用者と一緒に材料を刻み、調理を頼むと快く引き受けて下さり、楽しく料理作りをする事ができました。フロア中に良い香りが漂い五感の刺激になったようでした。

今後も、出来ることを大切に、活気ある生活が送れるようにして行きたいと思えます。

### 4. 一年を振り返って

7月に、職員の異動があり、5名のうち4名が新しくせせらぎの家に配属となり、ご利用者に不安を与えてしまうのではないかと不安でした。

職員が変わっても、今まで通りの生活が送られるよう、日々の生活の様子を把握し、申し送りもしっかりと行い、情報交換も密に行なってきました。

また、ご利用者が困惑しないで生活が送れるよう、職員は休日の合間を利用し、事前に一人ひとりの生活の様子を把握することに努めてきました。ご利用者によっては、執着心や拘りが強い方がおり、異動になった当初は、受け入れることに戸惑いも感じました。また、あるご利用者が言葉をはっきりと話せないことや、上手く聞き取れない時もあり、職員の言葉が強くなる事もあり反省しなければならないこともありました。

本人の思いを受け入れるには、表情や動きから何をしたいのかを察知しなければならず、職員にも心のゆとりが無ければならないと考えさせられたこともありました。

職員のペースに合わせるのではなく、ご利用者のペースに職員がお手伝い出来るよう、心にゆとりを持ちケアにあたりたいと思えます。

高齢・重度化が進んでいるなか、特に大きなアクシデントも無かったことが幸いでした。

今後も、いつ終末期を迎えるか分かりませんが、もしそのような状況になった時でも、安楽に最期を迎えることが出来るよう、他職間と連携を密にし、“悔いのないケア”を行ないたいと思えます。

ご利用者さんの気持ちに寄り添い、安心して生活が送れるよう、温かい心でケアにあたり

たいと思います。

## 平成26年度 だんらんの家 生活報告書 (北棟)

### 1. 生活全般について

家目標でもある「高齢化に伴う身体機能の低下や認知症状に対するケアと体調管理、精神面のケアに努める。」に取り組み、改めて認知症の方に対してのケアの難しさを痛感した一年でもありました。

先程まで食事をされていたのに、食事を終えると直ぐに「まだ、ごはん食べてない。食べさせてもらえない」等の訴えに、「さっき食べましたよ」と伝えても頑として「食べてねんだあ」と。そのやりとりを繰り返しているうちに次第に声のトーンも大きくなっていき、隣のユニットの介護員さんや看護師さんに「どうしたの、そんな大きな声で」「廊下まで聞こえるよ」と言われる始末。「悪気があって言った訳ではないのに」と自問自答、自暴自棄と云った4文字熟語が頭の中で毎日のように浮かんで消えていきました。

ちょっとした声かけ一つで、不快な気分になってしまったり、興奮させてしまったりと認知症に対する知識不足から、皆さんに不快な思いを掛けてしまったように思います。今回の反省点を次年度しっかりと活かせるよう努めていきたいと思っています。

東棟でユニットを実施していた時は、大所帯のイメージがあったユニットでしたが、北棟移動後、だんらんの家として10名でスタートし2年目、3名のご利用者が沢山の思い出を私達に残して天国へと旅立って逝かれました。(心からご冥福をお祈りします。)

### 2. 食事・入浴・排泄について

#### ①食事について

年齢や体調の変化に応じ食事形態の見直しや食事量の調整等行ってきました。

90歳以上の高齢者が2名おり、食事形態はミキサー食でも食欲は旺盛、しっかり食べ、しっかり休んでいる生活を送っています。また、自分で食事を摂っている姿を見ると、いかに口から食べることが大切であるかを感じずにはられません。

また、朝・夕経管対応の方でも、昼食は離床シフロアでペースト食を介助にて食べています。食べて頂ける間は、口から頂いて欲しいと思っています。最期のその日まで美味しく食事を摂って頂けるよう日頃のケアを大切に頑張りたいと思います。

#### ②排泄について

個々の尿量に合ったパットを使用していますが、見直しを要す場合、随時対応しています。特に尿臭や消臭対策に関しては、まめな陰部洗浄や消臭パッド等を使用し尿臭等の軽減に努めているものの、思うような成果は得られませんでした。今後も引き続き尿臭や消臭に対し前向きに取り組んでいきたいと思っています。

#### ④入浴について

身体状況に合った方法で安心・安全な入浴ができたと思います。また、入浴を嫌がる方に対

しては、気持ちよく入浴できる環境づくりに心掛けケアに取り組みました。（着替えを一緒に準備する、雰囲気づくりや声かけも無理強いせず、本人の気持ちに寄り添いながら対応しました。）その結果、現在は前ほど強い拒否はなく、ゆっくり気持ちよく入浴されています。

また、皮膚トラブル対策として保湿クリームやワセリン等を使用し肌の保湿に努めています。

### 3. 行事などの取り組みについて

ホーム内行事、レクリエーションに関しては、その日の体調等を見ながら常時5～6名の方が参加されています。また、朝のラジオ体操や昼のパタカラ体操等も職員の動きや声に合わせて体を動かしたり、パ・タ・カ・ラと大きな声を発することでストレス解消にもなっているようです。今後も機能維持の一環として継続して行きたいと思います。

### 4. 一年を振り返って

個々の生活パターンに合わせたケアを行ってきました。高齢の方に対しては、起床時間や離床時間等、その日の体調等を見ながら時間を決めず、目が覚めていたら本人に確認し離床するようにしました。

一人ひとりのニーズに合わせて寄り添ったケアを行いながら、安心して生活が送れるよう職員間での連絡を密にし、今後も統一したケアを実践できるよう努力していきたいと思います。

原発事故から4年目を迎えました。長かったような短かったような色々なことを考えなければならない1年でした。唯一、村に残ったいいたてホームが村の復興の先駆けとなれるよう、4年間必死になり皆頑張ってきました。しかし、そんな私たちの職場が今揺れているように思います。帰村するのか、しないのか、辞めるか、辞めないか、新しい職員が入ってくるのかと云ったように、毎日不安を抱えているのも事実です。

## 平成26年度 こもれびの家 生活報告 (北棟)

### 1. 生活全般について

年間目標として「ご利用者の身体面や精神面を理解しご利用者一人ひとりのニーズをしっかりと把握しながら日々のケアに努める」を掲げ、1年間ケアに努めてきました。

北棟に異動してから10名だったご利用者も6名になってしまいましたが、逆に、職員と関わりあう時間が増え、行き届いたケアが出来ていると感じています。

食事が終わると居室に移動しベッドで横になることが多かった方が、午前中、足のマッサージをしながら大好きな時代劇を他のご利用者と見たり、また、レクに参加し体を動かし楽しんだりと生活にも変化が出てきています。

ある方は、それまで元気でしたが急に体調悪化により、予想もつかなかった行動も無くなり、お話や楽しみにしていたカラオケで歌うこともしなくなり、悲しい気持ちになったこともありました。

しかし、いつも笑顔が絶えない方やひょうきんな方、時々お話してくれる方と個性豊かな人生の先輩と一緒に生活でき、こんなにも豊かな経験をさせて頂いていることは介護員冥利に尽きると感じています。日々を大切にする最善のケアができた1年だと思えます。

今後も個々の生活リズムに合わせ、生活リハビリを取り組み思いやりのある心のこもったケアを提供して行きたいと思えます。

### 2. 食事、入浴、排泄について

#### ①食事

個々の状態によって、美味しく楽しい食事で栄養が摂れるよう、口から食べることを大切に心掛けてきました。

また、経口摂取が困難な方でも、経管栄養だけでなく、昼食の時だけペースト食を食べて頂いたり、刻み食と常食のおかずを半々に盛り付け食べて頂いたり、粒上の固形物でむせりが見られる時は、お粥からトロミ食に変えたり、目の前でおかず等を取り分け盛り付けしたりと、目でも楽しんでもらいながら1日の摂取カロリーが摂れるよう工夫してきました。

#### ②入浴

浴槽の縁に取り外しできる手すりを付けることで、スライドボード使用でシャワー浴だけだった方も、浴槽に入れるようになり本人も満足されています。

寒い時期は、入浴前に温風ヒータで脱衣室を温め、ヒートショックの予防に努め、また、音楽を流し楽しみながら、入浴剤を入れたり、リラックスして入浴して頂けるよう努めています。

#### ③排泄

オムツ使用者が3名、他4名はトイレでの排泄を基本とし、プライバシーに配慮しながら

対応してきました。トイレでの立ち上がりが難しい方には、床と天井を利用し移動可能な縦の手すりを掴みやすい位置に設置し、立ち上がり出来るよう工夫しています。

### 3. ユニットの取り組みについて

ゆっくり寛げる空間を作るため、テレビの前に車椅子で入れる炬燵を置き、傍に茶筆筒等を設置し家庭的な雰囲気づくりをしてきました。また、居室の入口（引き戸）に季節の行事が分かるよう飾り付けをしたところ喜んで頂いています。

### 4. 一年を振り返って

毎年初心に帰り介護にあたっていますが、ご利用者との関係が馴れ合いにならないよう心掛け、その人がその人らしく尊厳をもち、生活できるよう頑張っていきたいと思います。特に、意思決定へのサポートを大切に、自立支援が継続できるようにしていきたいと思います。